

2017-18年度
ロータリー
学友世界奉仕賞

ロータリー学友世界奉仕賞の目的は、ロータリープログラムの元参加者の卓越した業績を称え、ロータリープログラムの社会的意義を広く伝えることです

ロータリー学友世界奉仕賞(旧「学友人道奉仕世界賞」「学友功労賞」)は、キャリアと活動を通じてロータリープログラムの人道的影響を身をもって実証した、優れたロータリー学友を表彰するものです。各ゾーン委員会がゾーン賞の受賞者を選出し、RI理事会とロータリー財団管理委員会が、ゾーン受賞者の中から世界賞の受賞者を選出します。世界賞の受賞者は、ロータリー国際大会で表彰されます。ロータリーの全学友が対象となり、全ゾーンが毎年候補者を推薦できます。



2017-18年度受賞者

ジョン・コールフィールド (第6970地区により推薦)

ムーアズタウン・ロータリークラブ (米国ニュージャージー州) の支援を受け、1973-74年度に米国からブラジルのカトリック大学サルバドル校に留学。外交官として長年のキャリアを有し、四大陸の9カ国で勤務。40年に渡る外交を通じて、国際理解と人権保護に貢献している。中南米の複雑な国家間関係を扱い、最近ではキューバにおける米国の利害関連の事柄において責任者を務めている。また、政治参加権や経済参加に対するキューバ市民の要望を支援する一方で、移民協定、環境保護、そして文化問題の交渉も担当。ほかにも多くの役割を担っており、複数機関が関与するテロリズム関連タスクフォースでリーダーシップを担い、ペルーの民主政治への移行支援にも貢献した。また、複数国における米国領事も歴任。さらに、がんと闘うキューバの子どもたちを支える民間団体Carmen & Rey's Kidsの支援も行っている。キャリアを通じて、Presidential Meritorious Service Award、US Department of State's Distinguished Service Award、Secretary of State's Award for Innovation in the Use of Technologyなど、数々の賞を受賞。



2016-17年度受賞者

緒方 貞子 (第2580地区推薦)

日本からの2人目の国際親善奨学生(1951-52年度)としてジョージタウン大学で修士号を取得し、のちにカリフォルニア大学バークレー校から政治学博士号を取得。国際基督教大学で准教授を務めたほか、上智大学でも複数の教職を務める。国連総会日本代表団員、ユニセフ執行理事会議長、国連人権委員会日本政府代表を歴任し、のちに第8代国連難民高等弁務官に任命されて、2期を務める(1990年~2000年)。2003年~2012年に国際協力機構(JICA)理事長、その後はJICAの特別顧問となっている。数々の賞や勲章を受けており、その人生を平和と国際的な人権援助に捧げている。



2015-16年度受賞者

スーザン・デイビス (第7230地区推薦)

米国ルイジアナ州のラファイエット・ロータリークラブの推薦で、1980-81年度のロータリー財団国際親善奨学生として英国オックスフォード大学に留学。世界最大の非政府開発組織である「BRAC」の使命を推進する「BRAC USA」の共同創設者。それ以前は、フォード財団のプログラム担当者として、バングラデシュでマイクロファイナンス(小口融資)の普及を推進。『Social Entrepreneurship: What Everyone Needs to Know』の共同著者であり、社会起業家の支援団体「Ashoka」の活動を精力的に支援。2012年にUnited Nations Partnership Fund(国連国際パートナーシップ基金)の理事に任命されたほか、Council on Foreign Relations(外交評議会)のメンバー、グラミン財団、Sirleaf Market Women's Fund、African Women's Development Fund USAの理事も歴任。現在、第7210地区ロータリーEクラブ会員(米国ニューヨーク州)。



2014-15年度受賞者

ジータ・ジャヤラム (第7620地区推薦)

元ローターアクター。2005-06年度に「大学教員のためのロータリー補助金」を受領し、コロンビア・ロータリークラブ (米国メリーランド州) の支援を受けてセントジョーンズ医療大学 (インド) で医学を教える。ジョンズ・ホプキンス大学医学部准教授で、ロータリークラブ入会後の1997年、インドにてMaanasi (「健やかな」の意) という名の精神医療クリニックを開設。その後も、医薬品の提供、医療スタッフや社会福祉士の研修、資金調達を通じてクリニックの発展をサポートし、全国一斉予防接種にも参加。後にハワードウェスト・ロータリークラブ (米国メリーランド州) 創立会員。



2013-14年度受賞者

マヤ・アジュメラ (第7620地区推薦)

米国カリフォルニア州のチャイナレイク・ロータリークラブの推薦を受け、1989-90年度国際親善奨学生としてムンバイ (インド) にあるセント・ザビエル大学に留学。Society for Science & the Public社の社長兼CEO、また同社機関誌の編集長。世界の恵まれない子どもや若者のための団体を支援する非営利組織、Global Fund for Childrenを自ら設立。児童書の執筆でも受賞歴をもつ。ワシントンD.C.に本部を置くジョンズ・ホプキンス大学のポール H. ニツツェ高等国際関係大学院の客員研究員・客員講師、およびデューク大学 (米国ノースカロライナ州) の客員教授を歴任し、同大学初の駐在起業家として社会起業に取り組んでいる。2016年には、著書「Invisible Children: Reimagining International Development at the Grassroots」を共同で執筆。



2012-13年度受賞者

ハーミンダー・シン・デュア (第3030地区推薦)

1980-81年度研究グループ交換 (GSE) メンバーとして、インドのナグパーサウス・ロータリークラブ (第3030地区) から派遣され、米国ペンシルベニア州 (第7300地区) を訪問。現在は眼科医としてノッティンガム大学クイーンズ・メディカルセンターの眼科で所長兼教授、および「British Journal of Ophthalmology」の編集長を務める。これまでに英国、インド、米国で治療を行い、世界各地の医師の研修にも尽力。角膜疾患治療の権威として知られ、専門手術の執刀にもあたる。インド在任時、ロータリーや非政府組織 (NGO) を通じて貧困層のために数々の眼科診断や、白内障・緑内障手術を無料で提供。2013年、大学の同僚と共同で発表した論文で、それまで人体の部位として知られていなかった角膜層「デュア層」を発表。



2011-12年度受賞者

ジョン・スカーリット (第9810地区推薦)

1983-84年度国際親善奨学生としてオーストラリアのカーリングフォード・ロータリークラブから派遣され、米国のミシガン大学に留学。現在はオーストラリア保健省の健康製品規制グループの副長官。スリランカにある国際水管理研究所の元理事長。オーストラリアで最大の農業生産高を誇るビクトリア州政府の第一次産業担当部署で事務次官として活躍した経験を持ち、インド、インドネシア、その他の東南アジアの国々へ、医療、バイオテクノロジー、農業、行政分野での幅広い支援提供を行う。元ロータリアン、元インターアクターおよびローターアクター。



2010-11年度受賞者

タルボット“サンディ”ダレンバート
(第6940地区推薦)

米国フロリダ州のチャタフーチ・ロータリークラブの推薦を受け、1958-59年度の国際親善奨学生として、ロンドンスクール・オブ・エコノミクスに留学し、政治学を専攻。弁護士であり、政治家・教育者、米国弁護士協会（ABA）元会長として活躍し、現在は米国フロリダ州立大学の名誉学長。これまで無料弁護活動に熱意を傾けてきた同氏は、現代における紛争解決の最前線に立った経験を持ち、中・東欧における新規民主国家を支援するABAのプログラム、「中欧・ユーラシア法律イニシアチブ（Central European and Eurasian Law Initiative: CEELI）」の設立にも尽力。法律分野で最も権威ある数々の賞を受賞。



2009-10年度受賞者

ピーター・カイル（第7620地区推薦）

1973-74年度国際親善奨学生としてニュージーランドのウェリントンノース・ロータリークラブから派遣され、米国バージニア大学に留学し、法律を専攻。ワシントンD.C.で国際法の弁護士となり、世界銀行の主任弁護士としての職を最後に引退後、現在は世界銀行へのコンサルティングを行う。各国で100以上の国際開発プロジェクトにかかわり、強力な経済を発展させるための法的基盤について助言。地区学友小委員長として、財団と地域の学友を再び結びつけるために大きく貢献。ロータリー財団学友諮問委員、2012年ロータリー学友祝賀行事の委員長、世界銀行への国際ロータリー代表を務めた経験もあり、アウトワード・バウンド・インターナショナルの現名誉会長。現在はロータリー平和センター委員長を務める。第7620地区の2013-14年度ガバナー。ワシントンD.C.のキャピトルヒル・ロータリークラブ所属。



2008-09年度受賞者

アレックス・ブキャナン（第9800地区推薦）

オーストラリア、ビクトリア州のカランバラ・ロータリークラブの推薦で1959-60年度国際親善奨学生として米国アイオワ州立大学に留学し、農学と理学を専攻。災害時に世界中で利用されている高タンパク質のオーストラリア・ミルクビスケットを1965年に開発したことで知られている。オーストラリア外務省に勤務時、タイで栄養価の高いベビーフードも開発。さらに、「アセアン(東南アジア諸国連合) フード・ジャーナル」の編集者を務める。国連大学の世界飢餓プログラムの創設メンバー。低所得国出身の国際親善奨学生を対象にRoyce and Jean Abbey農業研修プログラムを提供しているATSEクロフォード基金の元理事長。メルボルン・ロータリークラブ所属。



2007-08年度受賞者

ヤン・ウー・カン（第7620地区推薦）

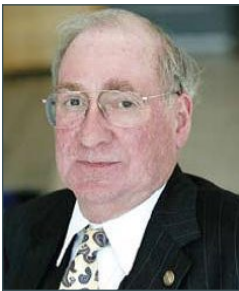
1973-74ロータリー年度国際親善奨学生として米国ペンシルベニア州のピッツバーグ大学に留学し、特殊教育を専攻。1976年に視覚障害者として韓国初となる博士号取得者となる。世界各地で障害者の擁護活動を行い、韓国と米国で奉仕プロジェクトに尽力。また、米国大統領からの任命を受けて全米障害者協会での任務を務め、世界障害者委員会副会長、フランクリン・アンド・エレノア・ルーズベルト研究所シニアアドバイザーを歴任。大学教授や講演者としても活躍し、数々の著書を出版。自伝「A Light in My Heart」は6カ国語に翻訳され、映画化される。ワシントンD.C.ロータリークラブ所属。2012年2月23日に他界（享年68歳）。



2006-07年度受賞者

フィリップ・レイダー（第7770地区推薦）

米国フロリダ州のセントピーターズバーグ・ロータリークラブから1967-68年度国際親善奨学生として派遣され、オックスフォード大学で歴史を専攻。1997年から2001年に駐英米国大使を務め、北アイルランドの平和調停において重要な役割を果たす。ビル・クリントン米国大統領次席補佐官、行政管理予算局副長官を務めた経歴をもつ。赤十字社、デューク大学公共政策研究所、銀行、教育団体、子供のために活動する団体の元理事およびBusiness Executives for National Securityの元会長。米国サウスカロライナ州とオーストラリアの大学の学長を務め、14の大学から名誉博士号を得る。現在は弁護士として国際的な金融機関であるモルガン・スタンレー・インターナショナルのシニア・アドバイザーおよび米国南東部で評価の高いネルソン・モリンズ・ライリー・スカボロー法律事務所の共同経営者。



2005-06年度受賞者

ジョン R. ショット（第7450地区推薦）

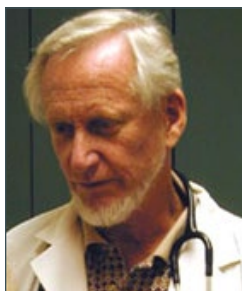
米国ペンシルベニア州のスワースモア・ロータリークラブから1957-58年度国際親善奨学生として派遣され、オックスフォード大学に留学。ショット・アンド・アソシエーツの創設者兼会長として、市政機関、NGO、国家の指導者に協力し、研修を行いながら、地方地域社会の発展についてアドバイスをを行う。農民に対する国の新しい資金貸し付け方法の確立や、中小企業の業務改善、宗教団体の人道的救援活動のためのネットワーク作りに貢献。20名の国際専門家チームリーダーとして、多目的な協力関係を築くための国家計画を整備し、これを世界銀行とインドネシア政府に提案。国際開発問題に関する本の著者であり、食糧の生産と配分、農村の再興、難民援助を取り巻く社会的および経済的問題を定義し、解決する方法について、学生、政府リーダー、非営利団体ボランティアを指導。



2004-05年度受賞者

カーン・ニューイェン (第5890地区推薦)

1987-88年度国際親善奨学生として米国ルイジアナ州ニューオーリンズ・ロータリークラブから派遣され、シンガポール国立大学で家族計画を専攻。留学中はベトナム人難民キャンプで英語を教え、ベイラー医科大学で医学博士を取得。研修医の勤務期間を終えた後、米国平和部隊のボランティアとしてマラウイを訪れ、さまざまな病気の患者を治療したほか、HIV／エイズのカウンセリング・プログラムを考案。現在は米国テキサス州ヒューストンのケルシーシーボールド・クリニックに内科医として勤務。テキサス大学ヘルス・サイエンス・センターの内科助教授。自ら設立したヒューストンホームレス・ヘルスクリニックでは、現在もボランティア活動を行っている。



2003-04年度受賞者

オットー・オステル (第5240地区推薦)

研究グループ交換 (GSE) のチームリーダーとして米国カリフォルニア州からブラジルを訪問 (1991年)。さらに、25回以上にわたり人道的プロジェクトで活動。米国カリフォルニア州シミバレーで外科医として勤務し、1950～1960年代は、宣教師としてブラジルのジャングルで生活。米国に帰国後、米国赤十字社の理事をはじめ、数々の地域団体や保健団体に貢献。全国予防接種日の運営にも携わり、第5240地区のロータリアンによるガーナとインドでの全国予防接種日を支援。数カ国でポリオ監視のコンサルタントを務め、マラリア予防については世界的な権威として知られる。米国カリフォルニア州シミバレー・ロータリークラブ所属し、1999-2000年度第5240地区のガバナーとなる。2011年4月15日に他界 (享年81歳)。



2002-03年度受賞者

ジェームス A. クリスチャンソン
(第5580地区推薦)

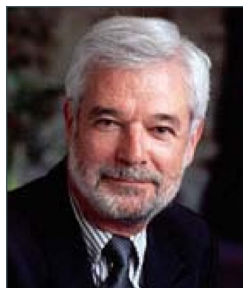
米国ミネソタ州ペリカンラピッツでスクールバスの会社を経営・所有。地域社会の人々と密接に活動し、子供の教育に関する法律について移民労働者に情報を提供。9カ国語に堪能で、ロータリーや数々の団体とともに、世界各地でボランティアとして活動。ペリカンラピッツ・ロータリークラブ会員として、1993年に中国吉林省長春を訪問した研究グループ交換チームリーダー、第5580地区の青少年交換委員長、25人の学生の受入れと派遣、125人の学生の付き添いとしてのブラジル訪問なども経験。ペルーとセネガルで行われた世界社会奉仕プロジェクトにロータリーボランティアとして参加したほか、ケニア、モザンビーク、セネガル、ジンバブエで行われたその他のプロジェクトにも参加。



2001-02年度受賞者

チリノ・フィチェラ (第2110地区推薦)

心臓とリウマチの専門医、およびイタリアのカタニア大学生理病理学部長。1986年から1996年まで、ロータリーボランティアとして活動し、アルバニア、カメルーン、ギニア、インド、マダガスカル、モロッコ、タンザニア、ウガンダ、ザイールなど20カ国以上で3-Hとポリオプラス (国際ロータリーが立ち上げ、赤十字、ユニセフ、米国国際開発庁とともにポリオの予防接種を行うプログラム) のプロジェクトに参加。ロータリアンおよびイタリア赤十字社の役員として、ポリオ撲滅のためのポリオプラスキャンペーンの重要性を政府高官に働きかけている。



1999-2000年度受賞者受賞者

サンフォード J. アンガー (第7410地区推薦)

1966-67年度ロータリー財団国際親善奨学生として米国ペンシルベニア州ウィルクスバレー・ロータリークラブから派遣され、ロンドン大学経済学部で政治学を専攻。「The Atlantic Monthly」誌のワシントン編集者、「Foreign Policy」誌編集長、合同国際 (UPI) 通信社のパリ特派員、

「ニューズウィーク」誌のケニア、ナイロビ特派員を歴任。長年の「エコノミスト」誌の寄稿者を経て、受賞経験のあるナショナルパブリックラジオの番組「All Things Considered」に出演。International Human Rights Law Group (国際人権法律グループ)、National Immigration Forum (全国移民フォーラム)、Public Diplomacy Foundation (対市民外交財団) の元理事。米国ワシントンD.C.のアメリカン大学コミュニケーション学部長を経験し、世界で8,300万人以上のリスナーに発信される米国政府の国際ラジオ局ボイスオブアメリカのディレクターを務める。米国メリーランド州ガウチャーカレッジで13年間学長を務め、現在はジョージタウン大学外交研究所の顧問委員。



1999-2000年度学友功労賞

ベリル・ナシャー (第9670地区推薦)

1949-50年度国際親善奨学生としてオーストラリア、メイフィールド・ロータリークラブから派遣され、英国ケンブリッジ大学で地質学を専攻。オーストラリアに帰国後、25年に渡って大学で地質学を教え、ニューサウスウェールズのニューカッスル大学の経営にも携わる。

学問での活躍に加え、オーストラリアのBusiness and Professional Women's Organization (女性専門職のための団体) で若い女性の専門的キャリアを奨励しながら、赤十字の活動にも関与。1972年に大英帝国勲章を受勲、1975年には国際連合協会から「ウーマン・オブ・ザ・イヤー」に選ばれ、赤十字社から奉仕功労賞 (1988年)、特別奉仕賞 (1994年) を授与されている。2012年5月5日に他界 (享年88歳)。



1998-99年度受賞者

スーザン・シーガル (第5110地区推薦)

1978-79年度に米国カリフォルニア州バークレー・ロータリークラブから派遣され、オーストラリアのクイーンズランド大学で障害者のための理学療法を専攻。1971年に自動車事故によって障害を抱えて以来、障害者への支援に全力を捧げる。障害者のための数々の国際教育プログラムを開発、導入し、国際的な地域社会奉仕や異文化リーダーシッププログラムを指導。バークレーアウトリーチ・レクリエーションプログラム(米国カリフォルニア州)の女性障害者連合およびモビリティ・インターナショナルUSAの共同創設者。数々の賞、表彰を受け、1995年には障害者の雇用促進における貢献を称えてビル・クリントン米国大統領賞を受け、2011年にチャップマン大学より名誉博士号を授与される。2013年にはアショカ・フェローに選ばれる。ユージーン・ロータリークラブ所属。



1998-99年度受賞者

岡田 玲 (第2650地区推薦)

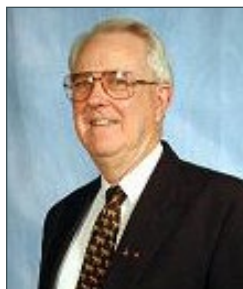
1978-79年度に滋賀県の長浜ロータリークラブから派遣され、米国カリフォルニア大学で言語療法を専攻。ポリオ経験者として、障害のある人々の支援に全力を捧げ、滋賀県社会福祉協議会賞、日本知的障害者福祉協会、滋賀県知事賞、厚生大臣賞など数々の栄誉を受賞。障害者を支援する諸団体のメンバーであり、重度の障害を持つ人々の生活を向上させるためのプロジェクトも指揮。第2650地区学友会を通じて、活発なロータリー活動を続ける。ポール・ハリス・フェロー、ベネファクター。海外から日本に留学する学生を支援する「米山記念奨学金」への熱心な寄付者でもある。



1997-98年度受賞者

ジョーン・クルーガー・ワドロー
(第5010地区推薦)

1956-57年度国際親善奨学生として米国ネブラスカ州のノーフォーク・ロータリークラブから派遣され、スイス、ジュネーブの国際問題研究所で国際関係を専攻。留学後は、アラスカフェアバンクス大学総長、ネブラスカ、ワイオミング、オクラホマの各大学での教授、大学経営など、国際教育と高等教育に関わるキャリアを重ねる。世界紛争問題解決について台湾経済省のために講義した経験をもつ。1991年、米国アラスカ州のフェアバンクス大学と旧ソ連のヤクーツク州立大学との間の交換協定に貢献。また米国とベトナムの国交が正常化してから初めてベトナムに派遣された代表団の1人として、相互貿易と教育の交流に尽力。



1997-98年度受賞者

ジョン・ギルロイ・ソーン (第9830地区推薦)

1978-79年度ロータリー教員としてオーストラリアのノースホバート・ロータリークラブから派遣され、米国ノースリッジのカリフォルニア州立大学で障害者教育を教授。母国オーストラリアで盲学校を創設し、初のオーストラリア手話辞典の編纂に携わる。オーストラリア視聴覚障害者学校団体の議長、オーストラリア聴覚障害者協会会長、障害者の就職を支援するJobMatchの共同創設者。地区ガバナーとして、さまざまな障害を抱える青少年を米国に派遣し、リーダーシップ研修のためのマッチング・グラント・プロジェクトに従事。2002-04年度国際ロータリー理事会をはじめ数々のRI委員会委員を歴任。現在は、ロータリー財団専門家グループメンバーおよび識字率向上のためのロータリアン行動グループ委員長を務める。ロータリー財団の功労表彰状と特別功労賞を受賞。ノースホバート・ロータリークラブ所属。



1996-97年度受賞者

ロベルト・アルバレス・デル・ブランコ
(第2210地区推薦)

1978-79年度ロータリー財団国際親善奨学生としてアルゼンチン、ブエノスアイレスのポリバル・ロータリークラブから派遣され、米国のカリフォルニア大学バークレー校大学院でビジネス経営を専攻。以来、アルゼンチン、スペイン、米国の大学で教鞭をとり、現在はマドリードのIEビジネススクール教授、およびカリフォルニア大学バークレー校のHaasビジネススクール、ニューヨーク大学Sternビジネススクール、ニューヨーク市ロックフェラー大学の客員教授。マーケティングに関する12の著書があり、学会誌に150以上の論文を掲載。世界経済フォーラムへのフェローとして、研究や教授としての貢献が大きく認められている。ブランド戦略の専門家として名高く、1992年のバルセロナオリンピック招致に大きく寄与。バルセロナコンダル・ロータリークラブ初代会長。



1996-97年度受賞者

バイロン R. トラウガー (第6780地区推薦)

1969-70年度国際親善奨学生として米国テネシー州オークリッジ・ロータリークラブから派遣され、ペルー、リマのサンマルコス大学でラテンアメリカの歴史と文化を専攻。テネシー州ナッシュビルの法律事務所で共同経営者となり、社会奉仕、リーダー育成、交換留学を通じた国際理解に熱心に従事。アパラチア（米国南東部）の貧しい地域の生活を向上させるためのプロジェクトを立ち上げ、ホスピスの設立、家庭内暴力防止プログラムの支援、教会の協力を得て未婚者を集めた奉仕団体設立に貢献。テネシーから派遣されるロータリー財団奨学生のオリエンテーションにも積極的に取り組む。ナッシュビル・ロータリークラブ所属。



1995-96年度受賞者

ドナルド・ボビアッシュ (第5550地区推薦)

1982-83年度国際親善奨学生としてカナダ、サスカチュワン州のワトラス・ロータリークラブから派遣され、セネガル、ダカールの国立行政学院で行政学を専攻。キャリアを開始して間もなく、発展途上国の相互支援に関する著書を出版。1990年代はじめには外交官としてパキスタンに駐在し、アフガニスタン難民の環境改善やアフガニスタン北部で緊急食糧確保に尽力。2000年以降、駐ガーナ高等弁務官、駐トーゴ・カナダ大使、駐東京カナダ大使館公使兼副館長、カナダ外務・国際貿易省アフリカ担当部長を歴任し、駐インドネシアのカナダ大使およびジャカルタにある東南アジア諸国連合への大使としても活躍。現在は駐コロンビアのカナダ大使。



1995-96年度受賞者

L. M. シンヴィ (第3050地区推薦)

1953-54年度国際親善奨学生としてインドのジョドプル・ロータリークラブから派遣され、米国マサチューセッツ州ケンブリッジのハーバード大学で法律を専攻。著名な法学者、憲法の専門家として、インド最高裁判所弁護士会の会長ならびにインド国会の議員を務める。長年の人権擁護者として世界人権大会の議長を務め、国連人権小委員会にも貢献。キリスト教とユダヤ教の対話を推進する International Council of Christians and Jews から異教間貢献賞を授与されるなど、その活動が称えられ数々の賞を受賞。2007年10月6日、ニューデリーにて他界 (享年76歳)。

ロータリー学友担当部
alumni@rotary.org
rotary.org/ja/alumni

ロータリー学友世界奉仕賞—JA



Rotary

リーダーのネットワークへ：[Rotary.org/ja](https://rotary.org/ja)